

魅力ある授業のために（単元化例） 文学国語 書くこと

1 単元の目標

(1) 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解することができる。〔知識及び技能〕

(1)ア

(2) 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすることができる。〔思考力、判断力、表現力〕 A(1)ア

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。「学びに向かう力、人間性等」

2 指導と評価の計画

科目名	文学国語	学年類型	2年	単位数	4単位	話すこと 聞くこと	
単元名	自分の内面を詩に表現しよう (茨木のり子「わたしが一番きれいだったとき」)					書くこと	○
単元の評価規準							
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。		「書くこと」において、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。(A書くこと(1)ア)		詩を創作する活動を通して、積極的に自身を内省したり、思考を整理したりしながら、自らの学習を調整しようとしている。			
主たる言語活動							
自身の内面を表現した詩を創作する活動。							
時間	授業のねらい・主たる学習活動			重点項目			評価方法
				知	思	態	
1	「詩」を書く目的と特徴を考える。 ①単元全体の流れを知り、学習の見通しをもつ。 ②何のために詩を書くかを考える。 ③詩（韻文）と散文の違いを話し合い、詩の特徴について考える。			○			・記述の確認 (ワークシート)
2	「わたしが一番きれいだったとき」を読み、作者がなぜこの詩をつくったのかを考え、詩には作者自身の内面の葛藤を昇華する働きがあることを知る。 ④ペアで詩の読解をする。 ⑤グループで、なぜこのような詩をつくったのかを考える。 ⑥グループでの意見をクラスで共有する。 (※読者に自分の考えを伝えるためだけに創作するのではなく、創作を通じて作者の内面の葛藤などが整理されうることを感じさせたい。読者に何か伝えるという目的以外にも詩をつくる目的はあると感じさせることで、創作意欲の高まりをねらいたい。)			○			・記述の確認 (ワークシート)
	自身の内面を表現した詩を創作する。						

3	⑦これまでの体験や現在の自身を振り返り、詩に表現することを				・記述の分析 (ワークシート、 振り返りシート)
4	・検討し、構想メモをつくる。自身に限らず、人物を想定してその 内面についても表現してもよいことを確認する。		◎	◎	
5	・⑧構想メモを基にして、詩の創作をする。 ⑨詩の創作を通じて、自身の内面を整理したり、葛藤を昇華したり できたかを振り返りシートに記入する。				
定期考査		◎			

※重点項目について、「◎」は総括の資料とするもの、「○」は、総括の資料とせず、不満足な場合は何らかの指導を行う。

3 思考・判断・表現のルーブリック

観点	評価A	評価B	評価C
文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。	自身の内面を深く省察するとともに、詩に表現する内容をよく整理し、詩を創作している。	自身の内面を省察するとともに、詩に表現する内容を整理し、詩を創作している。	自身の内面を省察し、詩を創作している。

4 主体的に学習に取り組む態度のルーブリック

観点	評価A	評価B	評価C
積極的に自身を内省したり、思考を整理したりしながら、自らの学習を調整しようとしている。	積極的に自身の内面を省察するとともに、創作する中で新たに気付いたことを粘り強く記述し続けている。	積極的に自身の内面を省察するとともに、創作する中で気付いたことを記述している。	積極的に自身の内面を省察している。